

平成 28 年度主要研究 外部評価結果

1 微小粒子状物質の広域的な汚染実態の把握と発生源寄与の解明

[総合評価]

PM2.5 は近年の大気汚染現象の中でも、特に社会的関心が高いテーマである。直接の健康被害が懸念されることから、行政上の課題としての重要性も高い。

関東地方の自治体間の連携において、神奈川県が中核的な役割を果たしており、当センターの実力の現れとみることができ、高く評価される。

26 年度以前の成果と比較しても、27 年度に大きな前進が見られており、適切かつ積極的な研究の推進が図られているものと評価できる。

今後さらに重点的に取り組む必要のある課題であるとともに、これまでの成果について早急に論文化し、対外的なアピールにも役立てることを期待したい。

今年度開始のテーマであるが、既に多くの解析結果が出始めており、大いに評価できる。複数の発生源解析モデルを利用するなど、データの解析の面でも研究の深化が進んでいる。

今後は、更にモニタリングデータを蓄積すると共に、複数の解析法から得られた結果をつきあわせて、相互に仮説が支持されるのか、相反することは無いのか、など総合的な解釈に進んでいただきたい。特に、モデルは使い方によって得られる結果も変わり得るので、検証しつつ進めることが重要と考える。

単に科学的な成果を目指すだけでなく、環境施策立案に資するという目標も常に念頭において進めて欲しい。

サンプル採取時の artifact の問題をこの研究で取り扱う余裕はないと思われるが、解析結果を左右しかねない重要と認識している。最新情報には注意を払っておいて欲しい。

研究レベルについても申し分ない状況に達している。近年のニーズに合致した研究である。シミュレーション関係のデータ解析について、多少の相違はあるものの、本来の研究目的から考えると、問題ないと考えられる。関東圏外、県内の詳細検討等、調査、シミュレーションの検討を継続されることが望まれる。

PM2.5 は社会的な関心も高く、再現性の高いシミュレーションモデルは、注意報発令の参照情報ともなるため、神奈川県において行政ニーズの高い研究と考えられ、また社会的な貢献も大きい。

一方で、H23 年度から継続している研究であり、より明確な研究目的の設定が必要ではないか（「広域汚染実態の把握」は達成度が測りにくく、一般的すぎる）。

広域大気汚染のシミュレーションモデルについては、他の研究機関でも行われているため、関東域の詳細なシミュレーションにおいて、湾岸域に固定発生源を有する神奈川県ならではの当センターの強みが発揮できると良い。

発生源情報は、移動発生源情報の充実も求められる。

学会での発表も行われており、他機関との知見共有の連携を一層進めてほしい。

[数値的評価]

評価内容	評価項目	評点				
		5	4	3	2	1
課題設定の妥当性	背景と必要性	3人	1人			
	優先性	1人	3人			
計画の立案と実施方法	研究内容	3人		1人		
	計画の妥当性	2人	1人	1人		
研究の進捗状況	進捗状況	3人		1人		
成果の展開と普及	目標の達成度	3人	1人			
	具体的な成果	3人	1人			
	成果の発展性	3人	1人			

5 点満点（標準 3 点）の評点で 5 ~ 1 点の絶対評価